

クラス番号	902	担当教員名	中村 強士
テーマ	保育実践から子ども理解を深める		

ゼミナール概要

目的：

子どもはこの世に生まれ、家庭や地域だけでなく、幼稚園や保育所、学校、学童保育、スポーツ少年団、学習塾など、たくさんの居場所で学び育っていきます。いろいろな場で大人もまた子どもと出会い、子どもとの学び合いを通して、より大人らしくなっていくのではないのでしょうか。

子どもたち相手の仕事をするにあたって、目の前の子どもをどう捉えるかという「子ども理解」を欠かすことはできません。例えば、いくら「楽しい遊び」をテクニックとして身につけたところで、その遊びが目の前の子どもにふさわしいかどうか判断できなければ「楽しい遊び」にはならないからです。

本ゼミは子ども理解を深めるために、保育所保育実践を中心に学び合います。

共働き家庭やひとり親家庭にとって必要不可欠な施設が保育所です。いま保育所の保育実践を考えるにあたり、生活困難で保育所に満足に通えない子、生活不安を暴力という形で表現する子への支援が必要です。他方で、音楽・体育・英語教育など保護者の教育要求を無視することはできません。幼い子どもが何を願っているのか、その声をしっかり聴きとって理解できる専門職が求められています。

本ゼミは、実践記録やフィールドワークなどをおして、子ども理解を進め深めることが目的です。私たち「大人」の眼の育ちに応じてしか子どもは見えてきません。子どもたちと共に成長してきた先輩たちの保育実践から多くのことを学びつつ、現実の保育実践からも子ども理解を進めたいと思います。

計画（内容・方法等）：

○前期：

前半は、テキストの学習を中心に演習を進めます。各グループは、テキストの分担範囲から原著にあたり、内容の要約と論点を発表します。このような文献学習を通してレジュメ作成や発表の方法、論点の立て方や議論の進め方などを学びます。後半は課題レポートを作成するとともに、添削指導を行うことによって、レポートの作成方法を学びます。

○後期：

フィールドワーク（1日保育所実習及びヒアリング調査他）とその事前・事後学習を行います。前半は、社会的現実を切り取って分析・理解する調査方法を学びます。その後、ゼミ生が設定した研究テーマに基づいてグループを編成し、グループごとにフィールドワークのための事前学習を行います。後半はフィールドワークののち、これによって得られた学びを報告書にまとめます。

使用テキスト：

宍戸健夫他編『保育実践のまなざし—戦後保育実践記録の60年』かもがわ出版、2010年
参考文献・資料等は随時紹介・配布します。

担当教員からのメッセージ



子ども・子育てをめぐる現状はますます深刻になっています。そんな現状を打開したい、子どもの笑顔が輝く社会をつくりたいと心から願う学生を希望します。

また、こうした願いを研究・討論・コンパなどを通して仲間とともに共有したいと願う学生を希望します。

本ゼミの学びの対象は主に保育所保育実践ですが、学童保育、乳児院や児童養護施設などの社会的養護、障がい児の領域を目指す学生にも学びがいのあるゼミだと思っています。もちろん、保育士と社会福祉士のダブル資格取得を目指す学生を歓迎します。